学校心理士会神奈川支部ニュースレター

2016 年 6 月 26 日発行
発行責任者　岡田守弘
　　芳川玲子
〒259-1292
平塚市北金目 4-1-1
東海大学文学部心理･社会学科
「芳川玲子」研究室

第 19 号

巻 頭 言　平成 28 年熊本地震に寄せて

東日本大震災の生々しい記憶も薄れぬうちに、またも九州で大規模な災害が発生しました。犠牲になった方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された方々へのお見舞いと、一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。神奈川支部といたしましても、何らかの支援ができないか、検討して参りたいと思います。

本稿執筆の時点（4 月 19 日）では、まだ余震も続いており、避難所等にもなっていると思われる小中学校等の授業再開の見通しは立っていませんが、今後気になることの一つは、こうした被害に遭った子どもたちの心のケアです。

阪神淡路大震災、東日本大震災で経験したことですが、子どもたちの PTSD は災害直後に現れるものばかりではなく、3 年後、5 年後など周囲の復興が始まり、少し落ち好きを見せた頃に現れるということはよく知られています。

ちょうど今、教職を目指す学生に向けた「教育相談」という講座を担当しています。これらは生徒指導の充実にかかる科目群ですが、学生たちにまず強調しているのは、教育相談は、まず子どもたちにとって身近な大人が行う必要があるということです。スクールサイコロジストの配置が進み、心理師の国家資格化が進んでも、やはり子どもたちの一番身近な大人は、親を除いては学校の教師であるはずです。子どもたちが苦しいとき、誰を信頼し、誰を頼るか、そして相談されるより先に、子どもの変化を見抜き、積極的に働きかけていく専門性のある存在は教師を置いてありません。

以前､授業で教職をめざす新入生にアンケートを採ったことがあります｡その項目の中に､｢どんな先生になりたいと思う？｣というものがあったのですが､その回答で一番多かったのは､｢子どもたちに相談されるような先生になりたい｡｣というものでした｡子どもたちが相談してくるということは、その相談を聞いてくれるという信頼と、解決に力を貸してくれるという期待を込めたパートナーとして認めたということです。

今回のような大きな災害や事件がありますと、子どもたちの心のダメージは想像するよりずっと大きいものがあると思います。そうした心のケアを、一時的なものでなく長期にわたって担保していくために、改めて教育相談の知識や態度、学校心理学の知見が、多くの教師にとって必須なものであると感じます。そうした意味でも、今後九州地区の学校心理士会支部を支援

し、多くの先生方を励まし、子どもたちの心の支援を続けていただくようお願いをするとともに、我々学校心理士会も先生方を支援するよう力を尽くしていきたいと思います。

なお、今回の震災で、本支部事務局を置く東海大学の前途ある学生も犠牲になりました。併せてここに心から哀悼の意を表したいと思います。

（副支部長：田村順一）

第４０回研修会報告

日時　2015 年 10 月 18 日（日）
場所　ウィリング横浜

「神奈川県のインクルーシブ教育の方向性と今後の展望」

講師　神奈川県教育委員会教育局インクルーシブ教育推進課担当部長　田口　雅巳　先生

◆研修の概要

「学校の主役は子供」「「子供たちのために先生を、大人を、学校を、どう変えていくか」という視点から、神奈川におけるこれまでの歩みを踏まえて、共生社会の実現を目指す具体的な取組を含めてお話しいただいた。

◆講演

○背景として

学校の現場で専門性ということがよく言われる。小中高の先生から「特別支援教育は専門性がないから無理」とよく言われたが、「専門性の前に人間性」であると考えている。専門性を語る前に、「子供とどう向き合っていくか」という姿勢そのものが一つのロールモデル、人格形成の教材になっているということを意識する必要がある。

○神奈川の取組

神奈川県はインクルーシブ教育を打ち出しているが、インクルーシブ教育とは決して新しいことではない。昭和 59 年の提言「福祉総合政策の推進のために」以来、政策的な視点から、きちんと段階を踏まえながら進んできている。

インクルーシブ教育課が新設されたが、これはこの 10 年間の歩みを見えるようにしたものと捉えている。だから決して新しいことではない。平成 25 年８月の「神奈川の教育を考える調査会」最終まとめの中でインクルーシブ教育について小中学校、高校、特別支援教育の視点でいい方向性が示されている

○成果と課題

「障害児教育」から「特別支援教育」になって、個別の教育ニーズに対して教員一人一人が気付く力を持ち、チームで対応することができるようになっているのは成果である。

課題は、共に学ぶ取組が十分でないこと。学校の中で「今なにができるか」も大事だが、「社会に出た時に人生を豊かに生きていけるかどうか」ということを考え、先を見据えた評価をすることが大事。個別に支援しながら集団にどう戻していくか、という視点を大切にしたい。

○今後の方向性

「共生社会」の実現に向けて、「障がいのあるなしにかかわらず、集団の中で互いを理解しながら、社会性・思いやりの心を育む」ことと「誰もが相互に人格と個性を尊重し、認め合う社会性を育む」ことが必要である。そのために、障がいのあるなしにかかわらず、できるだけ地域の学校で／通常の学級で／高校で学ぶためのしくみづくり（多様な

学びの場の整備）と、障がいのあるなしにかかわらず、地域で共に生きるしくみづくりを一層進めていきたい。

第４１回研修会報告

日時　2016 年 2 月 14 日（日）
場所　相模原市立市民・大学交流センター
ユニコムプラザさがみはら

学校心理士会神奈川支部　第 41 回研修会(2015 年度南関東ブロック冬期研修会)

「学校心理士の役割と今後の展開　―公認心理師との関連の中で―　」

講師　跡見学園大学文学部教授　　山口　豊一　先生

研修の概要

◆公認心理師とは

・保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術を持って、次に掲げる行為を行うことを業とする者

①心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。

②心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。

③心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。

④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。

（一般社会法人日本臨床心理士会　資格法制化プロジェクトチーム　2015）

・公認心理師法は 2015 年 9 月 16 日に公布された　⇒　国内初の心理職国家資格化

◆学校心理学とは

「一人ひとりの子どもの学習面、心理・社会面、進路面、健康面における問題状況の解決と子どもの成長をめざす心理教育的援助サービスを支える学問体系」

・学校心理士に求められること

①アセスメント②カウンセリング③コンサルテーション・コーディネーション④リサーチは

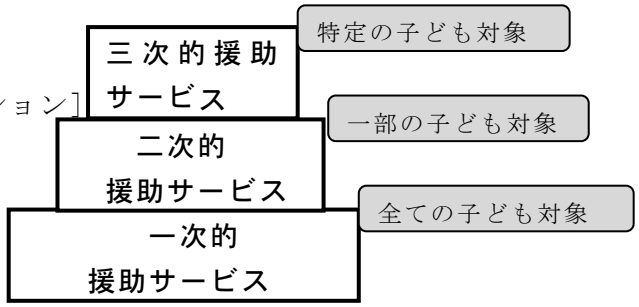
⇒　公認心理師の①～④に対応している

◆援助サービスの 3 つのシステム

マネジメント委員会
［子どもへの援助サービスのコーディネーション］

コーディネーション委員会
［子どもに対する援助のコーディネーション］

個別の援助チーム
［子どもをめぐるチームによる援助］



※一番上のマネジメントにコミットすることが一番効果的

◆「チーム学校」と学校心理士

・「チーム学校」とは・・・教職員や専門スタッフ(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員、医療的ケアを行う看護など)を積極的に学校教育で活用し、学校が「チーム」としてその教育力を上げようという考え方

⇒学校心理士はコーディネーションを推進する「チーム学校」の要として働く

本の紹介

「週イチでできる　アクティブ・ラーニングの始め方」　西川純　著　　東洋館出版社

子どもたちが主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」という言葉を良く耳にします。小学校などではこれまでも当たり前のように取り入れていた手法ですが、高校などでは耳新しい言葉かもしれません。どこでも、誰でも取りかかれ、子どもたちが変わっていくヒントが書かれています。

「あるがままに自閉症です」　東田直樹　著　　エスコアール

跳びはねたり会話が成り立たなかったり、関わりが難しい著者ですが、その内面世界の豊かさに驚かされます。海外でも出版され話題になった「自閉症の僕が跳びはねる理由」の他、近著「跳びはねる思考」などれも興味深い内容です。インクルーシブ社会に向けてＡＳＤ(自閉症スペクトラム障害)の理解を促す良書です。

2016 年度の主なる予定

□神奈川支部研修会

第 43 回研修会　日時：平成 28 年 10 月 23 日(日)　　会場：ウィリング横浜
講師：高田　治　氏　(川崎こども心理ケアセンター園長)
テーマ：　虐待　(予定)

第 44 回研修会　日時：平成 29 年 2 月 26 日(日)　　会場：ウィリング横浜
話題提供：蒲地　敬子　氏他
テーマ：児童指導専任や児童支援コーディネーターなどの制度について

□日本学校心理学会第 18 回大会

日時：平成 28 年 10 月 1 日(土)、2 日(日)
会場：名古屋大学東山キャンパス　(地下鉄名城線　名古屋大学駅下車すぐ)
テーマ：学校の安心と安全を目指して　～みんながつながり、みんなで支える～

□日本学校心理士会全国大会

日時：平成 28 年 12 月 3 日(土)、4 日(日)
会場：東京成徳大学十条台キャンパス(JR 埼京線十条駅下車　JR 京浜東北線東十条駅下車)

お知らせ

■学校心理士会神奈川支部創立 20 周年に向けて

平成 31 年(2019 年)に神奈川支部は創立 20 周年を迎えます。記念行事として出版物の刊行を検討しています。神奈川支部のこれまでの取組みとこれからの方向性を盛り込んだ「神奈川らしい学校心理士像」を盛り込みたいと考えています。ご意見、アイディア等役員会までお寄せください。

[編集後記] 災害大国日本をまた痛感させられる熊本の大震災でした。学校が避難所となる様子を見ていると改めて地域における学校の役割を考えさせられます。また、学校が再開し子ども達の笑顔がＴＶ画面に映されると学びの場としての学校、育ちの場としての学校の存在の大きさを再確認させられます。学校心理士としてそれぞれがそれぞれの場で何ができるのか考え、行動していきましょう。そのツールとしてこのニューズレターがお役にたてることを願います。ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp（**編集部**）